



県立図書館はこんなこともしてくれます！

本校の図書館は創立当初から地域の方々にも貸し出し業務を行つてきました。司書も代替わりしながら業務が途絶えることなく、高校としての書籍の充実度はなかなかのものになつています。しかしながら、昨年度は学校司書が完全に空席となつた年で、その穴埋めを司書教諭や図書部職員が担うにしても、サービス低下は免れない事態となつてしましました。

そんなことで頭を抱えていた折、親身に相談に乗つてくれたのが県立図書館でした。しかも「図書ボランティアを養成するような図書館講座を開催してみたら」と提案してくれたのです。

早速、本校を会場に、連続3回（月1回）の出前講座となりました。テーマは1回目「学校図書館の大切さ・図書の整理・講義とワークショップ」、2回目「本の楽しさ 電子書籍、絵本、紙芝居等」、3回目「図書の展示の仕方 講義とワークショップ」。こうした努力にも関わらず、保護者や地域の中から図書ボランティアを買つて出る方は皆無でした。それでも、県立図書館の職員の方々が講師となり、もつたないほど内容の充実した講座を行つていただきことで力強いエールを感じたものです。そうした県立図書館の支援や保護者からのご理解もあって、今年度は独自に司書を置くことができました。また、今年も昨年同様の講座を開催し、図書館のレイアウトを刷新できたところです。県立図書館の全面的ご支援に対し、改めて心から感謝申し上げます。

なお、これも県立図書館からのお薦めで、「ファーレンス協同データベース事業」に本校も加入することにしました。全国の公立図書館、大学・短大の図書館とネット上でつながることで、知識・情報の大海上へと航海可能となつたことをうれしく思います。

学校図書館の活性化支援とその取り組み

県立図書館では高等学校、特別支援学校図書館への支援として、セット貸出や学校訪問による助言等、様々な事業を行っています。今回は、毎年夏に開催される学校図書館職員等研修会と、県立秋田西高等学校で実施した図書館講座についてご紹介します。

■学校図書館職員等研修会

県立図書館では、県内の高等学校・特別支援学校支援の一環として、8月9日(金)に「学校図書館職員等研修会」を開催しました。この研修会は学校図書館担当教職員や図書委員の生徒を対象とし、毎年1回開催しています。



↑「ポスターは引き算が大切。空間も設け、インパクトのあるものを。」とのお話をいただきました。(多目的ホール)

今回の研修では「ポスター・チラシの作り方講座」と題し、グラフィックデザイナーを講師にお招きし、効果的なポスターやチラシの作り方についての講義を行いました。

た。講義の中では、各学校が作成するのポスターや図書館だよりについて、丁寧なアドバイスをいただきました。

講義終了後は教職員と生徒に分かれ、情報交換を行いました。「図書委員会は普段どのような活動を行っているか」「本離れしている生徒を図書館に足を向かせるために、どのような工夫をしているか」「どのように本の展示をしているか」など、普段は知ることのできない他の学校の活動状況について、活発な情報交換がなされました。



↑「県内の高等学校図書館の写真を見ながら、活動内容について活発な情報交換がなされました。(多目的ホール)

行っているか」「本離れしている生徒を図書館に足を向かせるために、どのような工夫をしているか」「どのように本の展示をしているか」など、普段は知ることのできない他の学校の活動状況について、活発な情報交換がなされました。

県立図書館は、今後も様々な活動を通して県内高等学校・特別支援学校図書館を支援してまいります。

■秋田西高校 PTA研修「図書館講座」

秋田西高校では、図書館の一層の活性化を図るために、昨年度からPTAと図書委員会の生徒を対象とした図書館講座を行っており、今年も全3回の日程で当館に講師の依頼がありました。

● 第1回「図書館の基礎」

図書館の役割や司書の仕事について講義をしました。司書志望の生徒もあり、選書やレファレンスました。サービスなど多岐にわたる司書の仕事について熱心に聞いていました。

● 第2回「本の楽しさ」

保育園等で読み聞かせ活動に取り組んでいるJRC委員会の生徒たちも加わり、絵本の選び方や読み方のポイント等について、実際に絵本を手にしながら体験しました。

● 第3回「学校図書館ビフォー・アフター」

書架や机のレイアウトを見直すことで図書館を改



↑「ビフォー・アフター」の様子。古い本を片付け、面出しスペースを作成中。(秋田西高校)

善する「ビフォーアフター」を行いました。コーナーの配置や資料の展示を変えることで、印象が大きく変わりました。

図書委員会

の生徒の皆さん、PTAの方々、担当の先生方の熱意ある取り組みで、秋田西高図書館はこれからますます楽しく役立つ図書館となることだと思います。

Topics

～県立図書館で開催したイベントや催し物を紹介します～

「第2回震災復興チャリティーコンサート」を開催しました

東日本大震災からの復興を支援する「震災復興チャリティーコンサート」を、県児童会館との共催で5月25日(土)に開催しました。

当日は、秋田市在住のピアニスト近藤美穂子さんが「子犬のワルツ」などの曲を演奏し、大仙市在住の茂木美竹さんと双子の風歌さん優希さんの親子ユニット「美風優」が「Stand Alone」などの曲をコーラスで披露しました。



↑出演者と観客全員で「世界が一つになるまで」を歌いました。(県児童会館)

また、国際教養大学で学ぶ沖縄県出身者を中心とした学生グループ「AIU沖縄県人会エイサー隊」が伝統芸能の「エイサー」を実演しました。

会場となったけやきシアターには、200人を超える方が訪れ、演奏や実演を楽しみ、「花は咲く」などの曲と一緒に歌いました。

「図書館を元気に!」 秋田県図書館大会が開催されました

6月14日(金)、平成25年度(第37回)秋田県図書館大会が県生涯学習センターで開催されました。県内の市町村図書館や公民館図書室、学校図書館の関係者約100人が集まり、「図書館を元気に!～秋田の図書館活性化の道を探る～」をテーマに、講演や事例発表が行われました。

始めに、福島県南相馬市立中央図書館副館長の早川光彦氏より、「図書館のフルモデルチェンジ－期待される図書館になるために－」と題した基調講演が行われ、南相馬市立図書館における様々なサービスや、地域住民に期待される図書館となるための取り組みについてお話しいただきました。

続いて、4名の方から事例発表が行われ、みたね鯉川地区交流センターからは橋本五郎文庫の開設までの経緯や今後の展望について、秋田市立土崎図書館からは図書館と地域住民との協働について、由利本荘市中央図書館と秋田県立図書館からは、1年間の人事交流で得られた成果と今後の業務への活用に



↑南相馬市立中央図書館副館長早川氏による基調講演(県生涯学習センター)

ついて報告があり、地域の情報拠点としての図書館のあり方と活性化の方策について考える貴重な機会となりました。

図書館の仕事を体験 －職場体験・インターンシップに多数の参加－

当館には、全県各地から中学生や高校生が訪れ、職場体験やインターンシップなどを行っています。8月末までに、中学校19校、高等学校7校から延べ131人の生徒を受け入れました。

この体験では、当館のたどってきた歴史や役割などの説明を受け、カウンターでの貸出・返却や書庫内での書架整理、市町村や県立学校への発送・返本、カバーやラベル貼りなどの業務を、職員の指導のもとに行います。

体験を終えて帰る際、生徒たちは「利用者と接するカウンターの仕事が難しかった」「思ったより重労働で大変だった」「面白かった」「この図書館で働きたいという気持ちが強くなった」と感想を話しています。



↑“先輩”から熱心に仕事内容のレクチャーを受ける生徒たち(カウンター)

